

# ハリウッドが認めた動画生成AI 「RUNWAY」は映画に革命を起こすのか？

---

23161095 大木絢楓

# RUNWAYが「GEN-4」をリリース

---

米ニューヨークを拠点とするAIスタートアップ、Runway（ランウェイ）が3月末動画生成AIの最新バージョン「Gen-4」をリリース。同社は、エヌビディアやソフトバンクなども参加した3億800万ドル（約540億円）の資金調達を受け、企業評価額が30億ドル（約4300億円）に上昇した。

# 広範に及ぶ動画生成AI

---

2018年のアカデミー賞を受賞した映画などで高く評価されたチリのFabulaや、米国のライオンズゲートはRunway とAIを活用した映画制作を模索する目的で契約。

ハーモニー・コリンのような実験的な作風で知られる映画監督も、昨年のヴェネツィア国際映画祭でAIを用いた作品を発表。

主要な映画制作会社は、急速にAIツールを導入しており、映画業界におけるAIの普及は、もはや止められない。

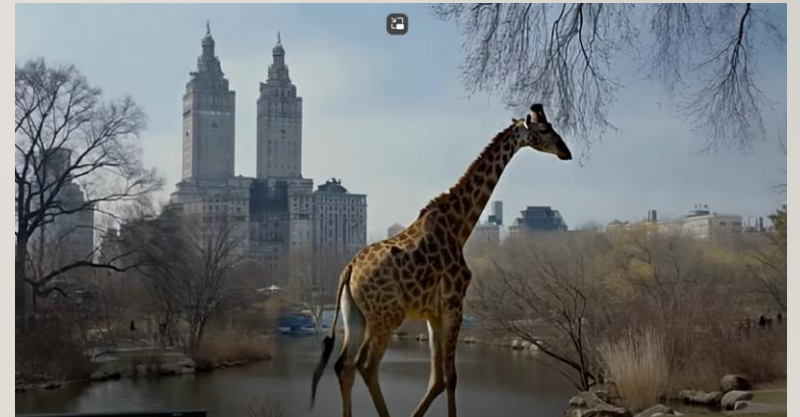
# 派手な視覚効果と空虚な内容

- キャラクターが歩いたり、走ったり、牛を撫でたり、マッチを擦ったりといった異なる場面が、説得力のあるタッチで描かれている。
- ニューヨークの街にキリンやライオンが徘徊する見ごたえのある映像を作ることにはできても、大都市が突然、動物園になった理由を観客に説明するのは難しい。

前者は曇り空なのに後者では晴天など一貫性に欠ける。

視覚的なインパクト、忠実性○

一貫性、整合性△



Gen-4動画の一部から引用

# AIの今後について

---

AIで生成したビデオは初期のCG同様に、視覚的なギミックを優先し、深いメッセージ性を欠くという失敗を繰り返す危険。

⇒AIは中身のない二番煎じの作品を大量に生み出すだけか。

映画とメディアはこれまでも、モノクロからカラーへ、アナログからデジタルへ、テクノロジーの変化に沿って進化。今問うべきは、AIが映画を変えるか否かではなく、映画制作の現場でどのようにAIを活用して「意味のある物語」を生み出していくのか。

# コメント

---

- AIはあくまでツールであり、それをどう使いこなして深い物語を紡ぐかは、やはり人間のクリエイティビティにかかっているのだと改めて感じる。
- CG映画が出た当初も「人間の表情が不自然」「動きがぎこちない」など散々言われていたが、今やCG映画は当たり前のように公開され、観客はそれを自然に受け入れ、感動し、楽しんでいるように、そのうち違和感なくAIが溶け込んだ作品も出てくるものと思う。
- 完全AI生成の動画に心打たれる日が来るのか。世代によっては、受け入れ難いものもある。

# 感想

---

- ショート動画やショートドラマが流行している今こそ、長編映画ではなく、短いストーリーでAIを活用できるのではないかと思った。
- 技術的な面が改善されても人間の感情を直接的に体験することのできないAIが映画のシナリオを描ききれるのか疑問に思った。